

目指す姿

- 「みる」「する」「ささえる」といった多様な視点でスポーツを楽しむ人が増えている
- スポーツに関する多様なニーズや課題に対応する体制が整備されている

目標

- 運動が好きな子供が増加する **【R9:小学生・中学生ともにR4から5ポイント増加】**
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率が向上する **【R4:51%→R9:65%】**
- スポーツ観戦者の割合が増加する **【R4:74.8%→R9:85%】**
- スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合が増加する **【R3:2.2%→R9:10%】**

施策の方向性①

身近な地域でスポーツに親しめる場の拡充

現状・課題

- ・運動やスポーツが好きな子供の割合に男女差がみられる。スポーツ少年団や運動部活動に所属する子供が減少傾向にあり、子供達がスポーツを続けられる環境が十分でない。
- ・成人のスポーツ実施率は増加傾向にあるが、全国と比較すると低く、年代や地域によって差がみられる。女性のスポーツ実施率が男性よりも低い。
- ・スポーツ観戦に関心があるものの割合は前回調査から増加しているが、スポーツを観戦する者の割合を増やす必要がある。

■運動やスポーツが好きな子供

小中ともに好きな割合は全国とほぼ同程度だが、女子の割合が低い。

○運動やスポーツが好きな子供の割合

※R3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

小中	項目	男子		女子	
		高知県	全国	高知県	全国
小学生	好き やや好き	90.1	91.0	83.4	83.7
	やや嫌い 嫌い	9.9	9.0	16.7	16.4
中学生	好き やや好き	88.0	87.3	75.5	75.4
	やや嫌い 嫌い	12.0	12.8	24.5	24.7

■子供のスポーツ環境

○スポーツ少年団の団数・団員数
団数、団員数ともに減少傾向

※日本スポーツ協会HP

項目	H28	R4
団数	221	184
団員数	4,332人	3,423人

○中学校の運動部活動数・部員数
高知市の部数は増加しているが、部員数は全体的に減少傾向

※スポーツ課調べ

項目	H28		R3	
	高知県	全国	高知県	全国
部数	高知県	404	431	
	高知県以外	579	576	
部員数	高知県	5,664人	5,185人	
	高知県以外	5,870人	4,832人	

○地域における小中学生の活動環境

※スポーツ課調べ

小・中学生とも、活動できる競技が5競技以下の市町村は全体の38.2%。また、多くの市町村において活動環境が小・中いずれかに限られている競技が見られる。

○部活動や地域スポーツクラブ加入状況
運動部や地域SCへの加入率は全国より低い状況がみられる。

※R3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

項目	男子		女子	
	高知県	全国	高知県	全国
運動部	72.6	73.8	51.2	57.1
文化部	9.7	9.9	35.1	30.5
地域SC	9.6	18.0	7.0	10.7
未所属	12.2	8.8	12.4	10.3

■成人のスポーツ実施率

成人の週1回以上のスポーツ実施率は男女とも向上しているが、男性よりも女性の実施率が低く、男女とも全国の数値よりは低い。また、地域によって差がみられる。

○成人の週1回以上のスポーツ実施率

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

区分	H28	R3 ()は全国
全体	44.3%	51.0%(56.4%)
男性	46.2%	52.8%(58.5%)
女性	42.8%	50.0%(54.1%)

○地域別

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査 単位%

安芸	香美	高知	土長	吾川	高岡	幡多
44.3	51.0	51.8	54.3	49.2	53.8	50.3

■スポーツ観戦の状況

スポーツ観戦に関心がある者の割合は、前回調査から増加しているが、14%の者がスポーツ観戦していない。

○1年間にスポーツ観戦をした者の割合

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

項目	割合
観戦した	74.8%
観戦していない	14.0%
無回答	11.2%

■スポーツ振興に期待する効果及び県・市町村への要望

○地域のスポーツ振興に期待する効果：上位3つ

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①健康の増進:57.0%
- ②運動やスポーツが好きな子供の増加:41.2%
- ③子供のスポーツ環境の充実:32.4%

○県・市町村への要望:上位3つ

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①地域のニーズに応じたスポーツ教室やイベント等の実施:34.3%
- ②誰もがスポーツ参加できる機会の拡大:29.0%
- ③子供が地域で希望するスポーツを実施することができる仕組みづくり:28.7%

取組

新

■子供のスポーツ環境づくりの推進

- 身近な地域で子供達が希望するスポーツを続けられるようにするため、
- 新たなスポーツサークルの立ち上げや、運動部活動の地域移行など、市町村が行う子供のスポーツ環境づくりを促進
- 子供のスポーツ機会の拡充に向けて、高知県スポーツコミッション等と連携し、市町村の取組支援や広域での取組を推進

【KPI】・子供のスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制をつくり取り組んでいる市町村の数 R4:0→R9:34
・広域で連携する体制ができていないエリアの数 R4:0→R9:6

拡

■地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進

- 健康づくりや生きがいづくりに向けて、地域住民のニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動を充実させるため、
- 総合型地域スポーツクラブにおける活動の充実
- スポーツ推進委員による多世代参加型のスポーツ等の普及・充実
- 中山間地域におけるリモートによるスポーツ活動の推進
- 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催

【KPI】・各地域のスポーツ実施率 R4の実施率と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

新

■女性のスポーツ活動の促進

- 女性のスポーツ参加の拡大を図るため、
- 女性のスポーツを検討する場における検討を通じた効果的な取組の実施
- 女性特有のスポーツ傷害予防のためのスポーツ医学科学支援の実施

【KPI】・女性の週1回以上のスポーツ実施率 R3:50%→R9:65%

拡

■子供が楽しくスポーツができる機会の拡充

- スポーツの楽しさを知り、スポーツを始める子供を増やすため、
- 親子で楽しむ運動プログラムや自分の運動特性を知る体力測定、多様な種目を体験できるプログラムを県内各地で実施
- オリンピックやパラリンピアン、プロ選手などによる講演やスポーツ教室の実施
- スポーツ少年団の交流大会の充実
- 学校の体育授業の充実

【KPI】・プログラムの参加者数 R4:1,420人→R9:R5から前年度比10%増の累計9,000人
・子供の運動能力の向上 小中学生の男女とも全国平均を上回る

拡

■スポーツ情報の発信強化

- より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、
- 県民を主なターゲットとし、スポーツ施設、スポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイトの運用 (こうちでスポーツ)
- 県外の方を主なターゲットとし、県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイトの運用及びサイトを活用したプロモーションの実施 (スボるKOCHI)

【KPI】・「こうちでスポーツ」のページビュー数 R4:8,000→R9:11万
・「スボるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

新

■新たなスポーツの推進

- 多様なスポーツに親しむことができるようにするため、
- オリンピック・パラリンピック競技等で注目された新たな競技等の普及促進

【KPI】・新たな競技の競技人口が増加する

拡

■スポーツ施設の整備

- 身近な地域において気軽にスポーツに親しむことができるようにするため、
- 広域のスポーツ振興に効果をもたらす施設整備の促進
- 学校体育施設の有効活用

【KPI】・必要な整備や有効活用が計画的に進められている

目指す姿

- 「みる」「する」「ささえる」といった多様な視点でスポーツを楽しむ人が増えている
- スポーツに関する多様なニーズや課題に対応する体制が整備されている

目標

- 運動が好きな子供が増加する **【R9:小学生・中学生ともにR4から5ポイント増加】**
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率が向上する **【R4:51%→R9:65%】**
- スポーツ観戦者の割合が増加する **【R4:74.8%→R9:85%】**
- スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合が増加する **【R3:2.2%→R9:10%】**

施策の方向性②

担い手の育成及び活動の活性化

現状・課題

・スポーツを「ささえる」人材が不足しているとともに、ボランティア活動を行っている者の割合が少ない。

■主なスポーツ指導者数(有資格者)

公認団体	資格	取得者数
日本スポーツ協会	スタートコーチ	55人(R3)
	コーチ	1,371人(R3)
日本レクリエーション協会	インストラクター等	596人(R3)
健康・体づくり事業財団	健康運動指導士	56人(R4)
	健康運動実践指導者	32人(R4)

■スポーツ推進委員

地域スポーツを支えるスポーツ推進委員は、年齢層が高くなってきており、人材の確保が懸念される。 ※R3 スポーツ課調べ

項目	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性	323	13	39	73	74	79	45
女性	110	0	15	24	29	26	16
合計	433	13	54	97	103	105	61

■スポーツのボランティア活動

スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合は、前回調査から減少し、2.2%と非常に少なく、ボランティアを行うことに消極的な考えの者の割合が高い。スポーツ活動における課題として支える人材の確保を課題と捉えている市町村は多い。



施策の方向性③

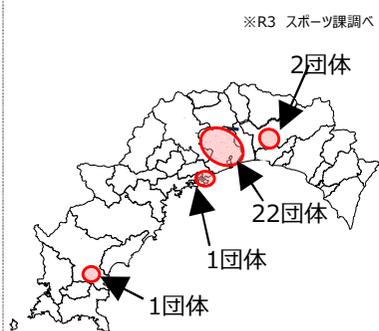
障害者がスポーツに親しめる環境づくり

現状・課題

・障害者が活動ができる場が少なく、選手として活動している人数も少ない。
・障害者スポーツへの関心はまだ高いとは言えず、支援体制も十分でない。

■障害者スポーツ団体・チーム

障害者が身近な地域でスポーツ活動を行える場が限られている。



■中央競技団体への登録者

全国大会などを目指して取り組むために中央競技団体に登録している選手が少ない。

※R3 スポーツ課調べ

年度	男性	女性	合計
H28	150	30	180
H29	163	29	192
H30	146	35	181
R1	142	35	177
R2	109	37	146
R3	135	36	171
R4	153	39	192

■障害者スポーツへの関心



■障害者のスポーツ支援体制

県立障害者スポーツセンターを中心に大会参加等の支援を行っているが、多様な活動を支援することには限界がある。

取組

拡

■指導者育成及びマッチング

有資格指導者の育成及びスポーツ現場における指導者を確保するため、
○指導者資格取得・更新のための講習会の実施
○関係機関・団体が連携して指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用

【KPI】・有資格指導者の数 R9:R4から10%増
・指導者をマッチングする体制が整っている

拡

■スポーツ推進委員の活動の活性化

スポーツ推進委員が地域スポーツの企画・調整役としてより活発に活動できるよう、
○スポーツ推進委員研修会の実施
○スポーツ推進委員がコーディネートする地域のスポーツイベントの促進

【KPI】・スポーツ推進委員が核となり企画・調整する地域のイベント等が増加する

新

■スポーツボランティアの育成

誰もが安心してスポーツに参加できる環境づくりに向けて、地域におけるスポーツボランティアの増加を図るため、
○スポーツイベントにおいてボランティアの活動意欲を高めるコーディネートや研修の実施

【KPI】・公募ボランティアが増加したイベント数 R4:0→R9:12

新

■大学等と連携した若者のスポーツ参加の拡大

将来の担い手確保を見据え、スポーツに関わる若者の拡大を図るため、
○スポーツイベントの企画・運営への若者の参加促進
○高校生や大学生がスポーツについて意見を交わすスポーツサミットの活性化

【KPI】・スポーツサミット等を通して、若者の協力を得て実施するイベント等の数 R4:0→R9:10

取組

拡

■身近な地域におけるスポーツ機会の拡充

障害者が身近でスポーツ参加できるようにするため、
○総合型地域スポーツクラブ等と連携し、障害者が気軽に参加できるスポーツ機会の提供
○親子で楽しめる運動プログラムやパラリンピアンなどによる講演、スポーツ教室の実施

【KPI】・障害者がスポーツ活動ができる団体数 R4:26→R9:36

拡

■障害者スポーツの活動支援

障害者の多様なスポーツ参加の拡大を図るため、
○障害者SCが核となり、地域のスポーツ活動と障害当事者とのマッチングの実施やサポートする人材の育成
○全国や世界を目指す競技者の取組の充実
○障害者スポーツの情報の活用強化
○障害者スポーツの理解啓発の取組の実施

【KPI】・障害者SCと連携し地域の活動支援を行う体制ができていないエリアの数 R4:1→R9:6
・中央競技団体への登録者 R4:192→R9:220

新

■有望選手の発掘・育成

全国や世界を目指して活動する選手を増やすため、
○特定の競技において有望選手を発掘し育成する取組の推進

【KPI】・発掘した選手数 R4:0→R9:25

新

■障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実

障害者がより安心・安全で効果的にスポーツに取り組むことができるようにするため、
○関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制を充実

【KPI】・R9までに支援体制ができていない

■障害者のスポーツ大会誘致

障害者のスポーツ参加の機運や障害者スポーツへの関心を高めるため、
○全国・ブロック大会等の障害者スポーツ大会の誘致

【KPI】・誘致した大会数 R4:1→R9:5(R5からの累積数)

目指す姿

- 「みる」「する」「ささえる」といった多様な視点でスポーツを楽しむ人が増えている
- スポーツに関する多様なニーズや課題に対応する体制が整備されている

目標

- 運動が好きな子供が増加する【R9:小学生・中学生ともにR4から5ポイント増加】
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率が向上する【R4:51%→R9:65%】
- スポーツ観戦者の割合が増加する【R4:74.8%→R9:85%】
- スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合が増加する【R3:2.2%→R9:10%】

施策の方向性④

スポーツにおける安心・安全の確保

現状・課題

・多様な形で安心・安全にスポーツを楽しむことができるよう、指導者や支える団体の取組の質的向上が求められている。

■スポーツ指導者に求めるもの

スポーツ指導者には技術指導だけでなく、スポーツの楽しみ方や興味関心がわか指導ができることが最も求められている。

○どのような指導者が必要か

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわか指導ができる人:68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人:44.0%
- ③スポーツの医学的な知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人:35.4%

■スポーツ団体におけるガバナンスコードの理解・取組

ガバナンスコードについて認識している団体やガバナンスコードの遵守に具体的に取組んでいる団体はまだ少ない。

※ガバナンスコード

令和元年にスポーツ庁は、スポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範としてスポーツ団体ガバナンスコードを策定

取組

新

■子供の発達段階等に応じたスポーツ指導の推進

子供がスポーツを好きになり、楽しくスポーツを続けられるようにするため、
○子供のスポーツ指導にあたる地域の指導者や教員、大学生などを対象に子供がスポーツを好きになる指導の在り方等について学ぶ機会の提供

【KPI】・指導者が学ぶ機会 全てのエリアにおいて学ぶ機会が提供されている

新

■スポーツ団体における適正なガバナンスの推進

スポーツ団体における適切な組織運営が行われるようにするため、
○競技団体やスポーツ少年団などスポーツ団体における適切なガバナンスの推進

【KPI】・ガバナンスコードに基づいた取組を行っている団体が増加する

新

■スポーツにおけるけが・事故の防止

スポーツ実践においてけがや事故をなくすため、
○スポーツ傷害やスポーツによる事故に関する研修会等の実施

【KPI】・研修会の参加者数 R5からR9まで毎年50名以上

施策の方向性⑤

デジタル技術の活用

現状・課題

・スポーツに参加しやすい環境づくりやスポーツに出会う機会を提供するためには、デジタル技術の効果的な活用が必要。

■リモートのスポーツ活動状況

県立スポーツ施設や地域スポーツクラブの拠点施設など16施設にリモート機器を配置し、活用数は増加傾向にある。

○リモートによる活動への参加延べ人数

※R3 スポーツ課調べ

年度	みる	する	ささえる	合計
R3	3,929	5,997	1,064	10,990
R4(～9月)	0	3,932	425	4,357

※主な活用事例

- ・スポーツ大会の動画配信
- ・遠隔地をリモートでつないだ教室・研修
- ・SSCにおける自動タイム測定機器の活用

■スポーツ情報サイトの運用状況

①こちらでスポーツ（H13～）

- ・主な機能 県立スポーツ施設の予約
- ・利用状況 サイト上での予約件数:25,198

②スポーツNAVI（R1～）

- ・主な機能 イベントや教室、施設の検索
- ・利用状況 イベント等の更新件数:207
年間ページビュー数:86,256

③スボる高知（R4～）

- ・主な機能 スポーツツーリズム関連の情報発信

取組

拡

■リモートによるスポーツ活動の推進

中山間地域におけるスポーツ参加の拡大やより効果的にスポーツ活動が行われるよう、

- 既配置のリモート機器のさらなる有効活用
- 大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修の実施
- 高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医学研究やトレーニング指導等の推進

【KPI】・リモートによる活動への参加者数

R4:6,730人→R9:108,040人

拡

■スポーツ情報の発信強化〔再掲〕

より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつながるため、

- 県民を主なターゲットとし、スポーツ施設、スポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイトの運用（こちらでスポーツ）
- 県外の方を主なターゲットし、県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイトの運用及びサイトを活用したプロモーションの実施（スボるKOCHI）

【KPI】・「こちらでスポーツ」のページビュー数 R4:8,000→R9:11万
・「スボるKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

施策の方向性⑥

産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

現状・課題

・多様化するスポーツの課題やニーズに対応する体制が十分でない。

■市町村におけるスポーツ振興を行う上での課題

市町村においてスポーツ振興を進めるうえで、多分野の関係者が連携して課題やニーズに対応する体制の必要性は感じているものの、その体制がある市町村は少ない。また、多くの市町村が財源や人材の不足を課題と捉えている。

○市町村においてスポーツ振興を進めるうえでの課題（単位:市町村数）

※R3 スポーツ課調べ

- ①:子供のスポーツ環境の整備・充実（30）
- ①:課題対策を進めるためのスタッフの不足（30）
- ③:課題対策に取り組むための財源不足（29）
- ④:課題の把握や検討する場の設定などの調整役となる人材の確保（21）
- ④:財政的な支援だけでなく、県職員や民間事業者による側面的な支援が必要（21）
- ⑥:多分野の関係者が課題について検討・対応する体制が必要（20）

■多様な主体の連携

スポーツ団体や民間企業、大学、行政などが定期的に意見交換を行ったり、スポーツの課題解決のために協議する場が少ない。

取組

新

■地域において関係者が連携する体制づくり

継続して地域の課題解決が図られるようにするため、
○市町村における子供のスポーツ環境づくりを推進する体制づくり
○子供のスポーツ機会の拡充に向けて広域で連携する体制づくり

【KPI】・子供のスポーツ環境づくりについて関係者が連携して対応する体制がある市町村の数 R4:0→R9:34
・広域で連携する体制ができていないエリアの数 R4:0→R9:6

新

■多様な主体のネットワークづくり

多様化するスポーツのニーズを捉えた新たな取組を促進するため、
○スポーツを推進する多様な主体が集い意見交換や情報共有する場を充実

【KPI】・多様な主体の意見交換や情報共有する場への参加団体数が増加する

拡

■企業が県内スポーツを支援する体制づくり

県内のスポーツ活動の充実を図るため、
○競技者や指導者の県内企業への受け入れなど、県内スポーツへの支援を検討する協議会を通じた取組の推進

【KPI】・県内スポーツ支援を検討する協議会に参加する企業が増加する

目指す姿

- 全国や世界の舞台で活躍する選手が多くの競技で育っている
- 障害者のスポーツ活動において全国や世界を目指す選手が増えている

目標

- 全国大会での入賞や国際大会へ出場する選手・団体が増加 **【R4:81→R9:100】**
- 全国や世界を目指す障害者アスリートが増加 **【R4:192→R9:220】**

施策の方向性⑦

全国や世界を目指す選手の育成

現状・課題

● 全国や世界の舞台で優秀な成績を収めている競技が限定されており、全体的な底上げを図るためには、競技団体の組織的な取組の質を高めることが必要。
 ● 県内の有望な選手を発掘し、個々の特性に合った競技につなぐ取組が県下全域を十分にカバーできていない。また、優秀な選手や指導者を県内に受け入れる体制が整っていない。
 ● 競技団体などにおけるスポーツ医科学の活用は増加しているものの、より効果的な活用に向けて各競技の特性や個人の実情に応じたサポートを行っていくことが必要。

■ 日本を代表する選手等

日本代表などとして国際大会に出場、入賞する選手が育ってきている。

○ 日本代表選手数及び国際大会入賞数・競技数

※スポーツ課調べ

年度	代表選手数	入賞数	競技数
H29	35	20	12
R1	31	16	8
R2	-	-	-
R3	9	7	7
R4	8	7	4

■ 国民体育大会の成績

栃木国体においては、獲得得点、入賞競技数、総合順位ともに前回大会 (R1茨城国体) の成績を上回り、成果がみられる。

※スポーツ課調べ

年度	総合順位	獲得得点(点)	入賞競技数
愛媛国体 (H29)	47位	552.5	15
福井国体 (H30)	47位	506.75	10
茨城国体 (R1)	46位	630	10
栃木国体 (R4)	46位	673	15

■ 中高校生の全国大会の成績

全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) の入賞競技数は、ここ数年ほぼ横ばい。

※スポーツ課調べ

年度	H29	H30	R1	R3	R4
全国中学校体育大会	6	5	5	6	6
全国高等学校総合体育大会 (インターハイ)	6	5	8	7	10

■ スポーツ科学センターの活用状況

スポーツ科学センターを活用する競技団体は着実に増加しているが、その内容や頻度はまだ十分でない。

※スポーツ課調べ

組織的に活用している競技団体数	R1	R2	R3
	10	8	10

サポート内容	R1	R2	R3
専門体力測定	514	466	498
コンディショニング	461	713	821
メンタルトレーニング	41	106	4
栄養指導	168	62	122
映像等	75	169	84

■ タレント発掘事業(くろしおキッズ)の現状

※スポーツ課調べ

○ 修了生
H22年度からR3年度 延べ219人

○ H27年からの主な成績
・国際大会出場者数: 6名
・国体出場者数: 20名

<主な成績>

- ・全国小学生陸上交流大会 女子100m優勝
- ・女子Jrジュニア日本代表 (ハンドボール)
- ・女子レスリング全日本Jrオリンピック優勝
- ・男子フェンシング(サブル)インターハイ入賞
- ・卓球国際大会Jrベスト8 等

取組

拡 ■ 競技団体における組織的な選手育成の推進

- 質の高い選手の育成が継続的に進められるよう、
- 競技団体におけるPDCAによる計画的・組織的に選手を育成・強化する取組の強化
- 全高知チームによる重点強化の実施
- 特別強化選手を指定した有望選手の活動のさらなる充実

【KPI】 ・各競技団体が計画的にジュニア選手の育成に取り組んでいる

■ 全国大会を目指す中学生・高校生の選手育成の推進

- 全国大会等で入賞する中・高校生の増加を図るため、
- 高知県中学校体育連盟を通じた中学生の選手育成活動の充実
- 競技団体における高校生の選手強化の充実
- 有望な高等学校運動部の活動のさらなる充実

【KPI】 ・全国中学校体育大会(全中)及び全国高等学校総合体育大会(IH)の入賞競技数
 <全中> R4:6→R9:8 <IH> R4:10→R9:15

拡 ■ 競技力向上に向けたスポーツ医科学の活用

科学的な根拠に基づく効果的なトレーニングや練習等が行われるとともに、スポーツ傷害の予防・軽減につなげるため、

- 高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医科学面から選手や指導者等をサポートする取組の推進
- ・各種サポートの実施
- ・スポーツ医科学研究
- ・スポーツ傷害に関する啓発
- ・女性特有のスポーツ傷害予防 等

- 競技団体がスポーツ医科学を計画的に活用できるよう高知県スポーツ科学センターが各競技団体を計画段階からサポートする取組を実施
- 部活動で活用できるトレーニングメニューの提供

【KPI】 ・スポーツ医科学を組織的に活用している競技団体数
R4:20→R9:30

拡 ■ 有望なジュニア選手を発掘・育成する取組の推進

将来にわたって有望選手を発掘し、個々の適性に応じた競技が選択できるようにし、全国や世界で活躍する選手を輩出するため、

- 小学生を対象とした有望選手を発掘し、運動能力やスポーツに対する意識を高めるプログラムを提供する取組の実施
- 全国や世界を目指す障害者スポーツの有望選手を発掘・育成する取組の実施

【KPI】 ・高知くろしおキッズに応募する選手数 R3:166→R9:200
 ・障害者スポーツの発掘事業で選抜した選手数 R4:0→R9:25

新

■ 選手や指導者を県内に受け入れる仕組みづくり

優秀な選手や指導者が継続して活動できるようにするため、
 ○ 優秀な選手や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みづくりの検討・実施

【KPI】 ・選手や指導者と企業とのマッチングを行う仕組みができている

拡

■ 競技拠点施設の計画的な整備

各競技において計画的かつ質の高い育成・強化活動が進められるよう、
 ○ 競技の拠点となる施設の整備を検討・実施

【KPI】 ・必要に応じて計画的な施設整備が進んでいる

目指す姿

- 全国や世界の舞台で活躍する選手が多くの競技で育っている
- 障害者のスポーツ活動において全国や世界を目指す選手が増えている

目標

- 全国大会での入賞や国際大会へ出場する選手・団体が増加 **【R4:81→R9:100】**
- 全国や世界を目指す障害者アスリートが増加 **【R4:192→R9:220】**

施策の方向性②

担い手の育成及び活動の活性化

現状・課題

・スポーツ指導の基本的な知識を有し、選手の発達段階や技術レベルに応じた指導ができる人材の育成が求められている。

■ スポーツ指導者数 (有資格者)

※R3 日本スポーツ協会・日本レクリエーション公表資料

公認団体	資格	取得者数
日本スポーツ協会 ・公認指導者	スタートコーチ	55人
	コーチ	1,371人
パラスポーツ協会 ・障がい者スポーツ指導員	初級	132人
	中級	53人
	上級	18人

■ スポーツ指導者に求めるもの

スポーツ指導者には技術指導だけでなく、スポーツの楽しみ方や興味関心がわく指導ができることが最も求められている。

○どのような指導者が必要か

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①スポーツの楽しみ方や興味・関心がわくようの指導ができる人: 68.3%
- ②健康・体力づくりの運動やスポーツの指導ができる人: 44.0%
- ③スポーツの医学的な知識や技術をスポーツの指導に活用ができる人: 35.4%
- ④障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人: 29.5%
- ⑤年間を通して定期的に指導ができる人: 28.5人

取組

拡

■ 指導者育成及びマッチング〔再掲〕

有資格指導者の育成及びスポーツ現場における指導者を確保するため、

- 指導者資格取得・更新のための講習会の実施
- 関係機関・団体が連携して指導者のマッチングや研修を行う仕組みの構築及び運用

【KPI】 ・有資格指導者の数 R9:R4から10%増
・指導者をマッチングする体制が整っている

■ 競技力向上に向けた県内指導者の資質向上

県内指導者の指導力を高めるため、

- 全高知チームにおいてトップコーチから学ぶ実践研修の促進
- 高知県スポーツ科学センターによるスポーツ医学研修の実施

【KPI】 ・全ての全高知チームにおいて事前研修が行われている
・高知県スポーツ科学センターによる研修会の参加者数 R5からR9まで毎年50名以上

施策の方向性⑤

デジタル技術の活用

現状・課題

・競技力向上につながるデジタル技術の活用事例は少ない。

■ デジタル化したらよいと思うスポーツ活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①ウィズコロナ・アフターコロナ社会に対応したスポーツ教室等の実施: 43.1%
- ②スポーツ施設の予約の申込: 34.6%
- ③スポーツ大会やイベントの申込: 28.4%
- ④スポーツ大会や研修の動画配信: 20.2%
- ⑤県内のスポーツ選手や指導者の情報: 15.9%
- ⑥競技力の向上に向けたスポーツ医学や機器の活用: 13.6%
- ⑦その他: 5.2%
- ⑧無回答: 13.6%

■ 競技力向上につながる主なデジタル機器の活用

高知県スポーツ科学センターやスポーツ団体におけるデジタル機器の活用はまだ少ない。

○SSCにおけるデジタル機器の活用

- ・リモートによる研修
- ・自動タイム測定機器

○スポーツ団体におけるデジタル機器の活用

- ・大会の動画配信

取組

拡

■ 選手の育成につながるリモートの効果的な活用

リモートを活用した取組により変化する社会環境や地理的なハンディを踏まえて、効果的な指導等を行うことができるよう、

- 各種スポーツ大会の動画の配信
- 大学等と連携したリモートによるスポーツ指導や研修の実施
- 高知県スポーツ科学センターが行うリモートによるスポーツ医学研修やトレーニング指導等の推進

【KPI】 ・リモートによる活動への参加者数 R4:6,730人→R9:108,040人

拡

■ 選手の育成におけるデジタル技術の活用

技術や戦術の向上につながるデジタル機器を活用し、練習の質的向上を図るため、

- 高知県スポーツ科学センターにおけるデジタル機器の活用
- 競技団体におけるデジタル機器の活用の促進

【KPI】 ・競技団体等においてデジタル機器の活用が進んでいる

施策の方向性⑥

産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

現状・課題

・高知県スポーツ科学センターが協力を得られている関係者は限定的。
・障害者の競技力向上を支援する体制が不十分。

■ 高知県スポーツ科学センターが行うスポーツ医学関連事業に対する関係団体・関係者からの協力

高知県スポーツ科学センターが行うトレーニング指導や栄養指導、メンタルトレーニングのほか、メディカルチェックなどの取組において協力が得られる関係団体や関係者の拡大が必要。

- ・高知県アスレティックトレーナー協会: 6名
- ・高知県栄養士協会: 7名
- ・高知県医師会: 13名
- ・メンタルトレーニング関連: 1名
- ・高知県理学療法士協会: 8名

■ 障害者の選手育成や競技力向上への支援

・多くが任意の団体であり、事務局に専属スタッフが配置されている団体はごくわずか。
・競技力向上に必要な対応が十分にできていない団体が多い。
・既存の競技団体が障害者スポーツの普及や選手育成・強化、大会の運営、指導者や審判の育成などを行うことは難しい。

法人格がある競技団体	7
専任のスタッフを配置している競技団体	2

取組

拡

■ スポーツ医学面からの支援体制の強化

スポーツ医学面からのサポートが利用者のニーズに応えられるよう、
○高知県スポーツ科学センターと関係団体との連携・協力体制の充実
〈主な関係団体・関係者〉

- ・高知県アスレティックトレーナー協会
- ・高知県栄養士協会
- ・高知県医師会
- ・県内大学関係者
- ・高知県理学療法士協会

【KPI】 ・SSCと連携する外部スタッフ数 R4:35人→R9:45人

新

■ 障害者のスポーツ活動を支援する体制の充実 (再掲)

障害者がより安心・安全で効果的にスポーツに取り組むことができるようになるため、

- 関係機関・団体と連携して障害者スポーツを支援する体制を充実

【KPI】 ・R9までに支援体制ができています

目指す姿

●県内の全ての地域でスポーツを通じた健康づくりやまちづくりの取組が推進され、住民の健康増進や地域の活性化につながっている

目標

●スポーツによる県外からの入込客数が増加 **【R4:3.2万人→R9:12万人】**

施策の方向性⑧

スポーツを通じた健康増進

現状・課題

・健康づくり無関心層や、関心はあるものの行動に踏み出せていない方への後押しが必要。

■日常生活における歩数
男性は平成28年と比較して歩数が増加傾向を示しているが、男女とも目標値には達していない。

Table with 2 columns: H28, R3. Rows for age groups (20-64, 65+) and gender (male, female) showing step counts.

■健康パスポート取得者数
取得者数が増加している。

Table with 2 columns: H30.2月末, R3. Row for number of holders: 23,715 vs 50,688.

■スポーツ振興に期待する効果
健康増進への効果を期待する者が最も多い。
○地域のスポーツ振興に期待する効果：上位3つ

- ①健康の増進:57.0%
②運動やスポーツが好きな子供の増加:41.2%
③子供のスポーツ環境の実:32.4%

取組

■高知家健康パスポートアプリを活用した健康づくりの推進

県民の健康意識のさらなる醸成と行動の定着化を図るため、
○日常的な健康づくり活動の促進

【KPI】・健康パスポートアプリDL件数 R4:●→R9:●
・日常生活における歩数 R4:●→R9:●

■地域に根差した住民主体のスポーツ活動の推進(再掲)

健康づくりや生きがいづくりに向け、地域住民のニーズ等に応じた住民主体のスポーツ活動を充実させるため、
○総合型地域スポーツクラブの活動の充実
○スポーツ推進委員による多世代参加型のスポーツ等の普及・充実
○中山間地域におけるリモートによるスポーツ活動の推進
○誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催

【KPI】・各地域のスポーツ実施率 R4の実施率と比較して全ての地域でスポーツ実施率が向上する

施策の方向性⑨

スポーツを通じた地域活性化・まちづくり

現状・課題

・新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツによる県外からの入込客数は大幅に減少している。
・地域におけるスポーツツーリズムの取組状況には地域差がみられる。
・スポーツへの関心の高まりや競技力の向上、経済の活性化につながる大規模大会の本県開催は、年度ごとに差がある。

■スポーツによる県外からの入込客数の推移
新型コロナウイルス感染症の影響で入込客数は大幅に減少している

Table with 2 columns: Year, Number of visitors. Rows for H29, H30, R1, R2, R3.

■スポーツ合宿の主な受け入れ施設
アマチュアスポーツ合宿の受け入れが一部の地域・施設に集中している

Table with 3 columns: Main facility, City/Town/Village, Number of visitors. Lists various sports facilities and their visitor counts.

■地域におけるスポーツツーリズム等の取組状況
スポーツツーリズムなどの地域活性化を図る取組を実施している市町村は多くない状況がみられる。

- <主な取組>
・マラソン大会 ・カヌーやSUP体験
・全国規模の水泳大会
・サイクリングイベント ・少年サッカー大会
<主な課題>
・企画運営するためのマンパワーや財源の不足
・運営をサポートするボランティアの不足及び高齢化
・施設の老朽化及び不足
・イベント会場周辺の宿泊施設等の環境が不十分
・参加者の固定化

■全国規模の大会開催状況

- <主な大会>
OR2
・全日本教職員バドミントン選手権大会
・全国高等学校相撲選抜大会
・日本高校ダンス部選手権
OR3
・日本選手権オープンウォーター競技
・全日本障害者ライフル射撃競技選手権大会
OR4
・全国高等専門学校体育大会
・全日本シニアバドミントン選手権大会
・四国インターハイ
・ソフトボールアジアカップ
・水泳の日
・ジャパンサイクリング高知大会

取組

■プロスポーツ・トップチームの誘致

県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につながるため、
○プロスポーツチームのキャンプや大会の誘致
○トップリーグチームの合宿の誘致

【KPI】・プロスポーツチーム等の誘致による県外からの入込客数
R4:2.3万人→R9:8万人

■アマチュアスポーツ合宿の誘致

交流人口の拡大により、本県のスポーツ振興及び地域・経済の活性化につながるため、
○関西圏をターゲットとした誘致活動や市町村と連携した情報発信及びプロモーションによるアマチュアスポーツ合宿の誘致を実施

【KPI】・アマチュアスポーツ合宿の誘致による県外からの入込客数
R4:5千人→R9:1万人

■地域の特色を活かしたスポーツツーリズムの推進

地域の交流人口の拡大により、地域におけるスポーツへの気運醸成及び地域・経済の活性化につながるため、
○本県の豊かな自然環境と「ぐんご高知サイクリングロード」を活用したサイクリングツーリズムの推進
○地域の特色を活かした市町村ごとのスポーツツーリズムの活性化
○スポーツツーリズムのWEBサイトを活用したスポーツ情報の発信やプロモーションの実施

【KPI】・市町村におけるスポーツによる県外からの入込客数が増加している

■スポーツ大会の開催及び誘致

県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につながるため、
○自然環境を生かしたスポーツ大会開催支援制度による大会の開催促進
○障害者スポーツ大会の誘致
○高知龍馬マラソンの開催

【KPI】・スポーツ大会による県外からの入込客数
R4:5千人→R9:3万人

■地元プロチームの活動の充実を通じた地域活性化の推進

地元チームの盛り上げによる県民のスポーツに対する関心の高まりにつながるため、
○高知ファイティングドッグスや高知ユニテッドスポーツクラブといったプロチーム及びプロを目指す地元チームの活動を支援
○多様な関係者が連携して効果的な支援を検討・実施するための体制づくり

【KPI】・地元プロチームのホーム戦の県外からの入込客数
<高知FD> R4:8,622人→R9:1万人
<高知USC> R4:11,490人→R9:2万人

■広域のスポーツ振興につながるスポーツ施設の整備

市町村におけるスポーツ振興や本県の競技力向上につながるため、
○本県の競技力向上や広域のスポーツツーリズムの活性化につながるスポーツ施設の整備を支援

【KPI】・必要に応じて計画的な整備が進められている

目指す姿

● 県内の全ての地域でスポーツを通じた健康づくりやまちづくりの取組が推進され、住民の健康増進や地域の活性化につながっている

目標

● スポーツによる県外からの入込客数が増加 **【R4:3.2万人→R9:12万人】**

施策の方向性⑩ スポーツを通じた国際交流

現状・課題

・東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーWCのレガシーを今後のスポーツ振興や多分野の活性化につなげることが必要。

■ 交流実績及び連携協定の締結状況

※下線は連携協定を締結した交流

- (1)シンガポール
 - ①スポーツシンガポール－高知県バドミントン協会
 - ②シンガポールスポーツスクール－高知県教育委員会
- (2)チェコ共和国
 - ①チェコオリンピック委員会－須崎市／高知県カヌー協会
 - ②チェコカヌー連盟－高知県カヌー協会
 - ③チェコソフトボール協会－高知県ソフトボール協会
- (3)オランダ
 - ①オランダ自転車関係者－宿毛市
 - ②オランダサッカー関係者－高知県サッカー協会
- (4)オーストラリア
 - ①ソフトボールクイーンズランド－高知県ソフトボール協会／嶺北高校
- (5)トンガ王国
 - ①トンガコミュニティ関係者－高知県ラグビーフットボール協会
- (6)ハンガリー
 - ①ハンガリー関係者－土佐町／本山町／須崎市／嶺北高校

取組

拡

■ 海外の国や地域とのスポーツ交流の実施

海外の選手や指導者との交流により競技力向上や異文化理解促進を図るため、
○ホストタウン等により関係を構築した国との相互交流等の実施
・シンガポール・チェコ・オーストラリア・トンガ・オランダ

【KPI】・連携協定による交流の継続及び他分野の交流につながっている

新

■ 世界大会等の事前合宿の受け入れ

県民のスポーツに対する機運醸成及び地域・経済の活性化につなげるため、
○今後国内で実施される国際大会に出場する海外チームの事前合宿の受け入れ
＜主なターゲット大会＞
・デフリンピック（令和7年／2025年／東京）
・アジア大会（令和8年／2026年／愛知）
・ワールドマスターズゲームズ（令和9年／2027年 関西）

【KPI】・事前合宿の受け入れの実現

施策の方向性⑤ デジタル技術の活用

現状・課題

・ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえ、多様なスポーツ活動においてデジタル技術を効果的に活用することが求められている。

■ スポーツ情報サイトの活用状況

- ①こうちでスポーツ（H13～）
 - ・主な機能
県立スポーツ施設の予約
 - ・利用状況
サイト上での予約件数:25,198
- ②スポーツNAVI（R1～）
 - ・主な機能
イベントや教室、施設の検索
 - ・利用状況
イベント等の更新件数:207
年間ページビュー数:86,256
- ③ス泊る高知（R4～）
 - ・主な機能
スポーツツーリズム関連の情報発信

■ デジタル化したらよいと思うスポーツ活動

※R3 県民の健康・スポーツに関する意識調査

- ①ウィズコロナ・アフターコロナ社会に対応したスポーツ教室等の実施:43.1%
- ②スポーツ施設の予約の申:34.6%
- ③スポーツ大会やイベントの申込:28.4%
- ④スポーツ大会や研修の動画配信:20.2%
- ⑤県内のスポーツ選手や指導者の情報:15.9%
- ⑥競技力の向上に向けたスポーツ医科学や機器の活用:13.6%
- ⑦その他:5.2%
- ⑧無回答:13.6%

取組

拡

■ スポーツ情報の発信強化〔再掲〕

より多くの方が本県のスポーツを知る、スポーツに触れる、スポーツをすることにつなげるため、
○県民を主なターゲットとし、スポーツ施設、スポーツイベント、スポーツサークルなどの県内スポーツ関連情報を発信するサイトの運用（こうちでスポーツ）
○県外の方を主なターゲットし、県内各地のスポーツツーリズムの情報を一元的に発信するサイトの運用及びサイトを活用したプロモーションの実施（ス泊るKOCHI）

【KPI】・「こうちでスポーツ」のページビュー数 R4:8,000→R9:11万
・「ス泊るKOCHI」のセッション数 毎年2,400セッション以上

施策の方向性⑥ 産学官民の連携によるスポーツを支える体制の充実

現状・課題

・スポーツを通じた地域活性化の取組を効果的に進めるためには他分野の関係者の連携が不可欠だが、連携状況は不十分。

■ 市町村におけるスポーツツーリズム等の地域活性化の取組の現状・課題

※R3 スポーツ課調べ

- 現状
スポーツツーリズムなどの地域活性化を図る取組を実施している市町村は多くない状況がみられる。
＜主な取組＞
・マラソン大会・カヌーやSUP体験・全国規模の水泳大会
・サイクリングイベント・少年サッカー大会
- 主な課題
・企画運営するためのマンパワーや財源の不足
・運営をサポートするボランティアの不足及び高齢化
・施設の老朽化及び不足
・イベント会場周辺の宿泊施設等の環境が不十分
・参加者の固定化
- 県に対する主な要望
・運営を行う人的・財政的な支援
・地域のスポーツ情報の発信
・成功事例の紹介及びノウハウの提供
・施設整備への補助

取組

拡

■ スポーツツーリズムに関する市町村や関係団体等との連携強化

市町村の実情や意向に応じたスポーツツーリズムの取組が効果的に進められるよう、
○市町村担当者会における情報共有や意見交換を実施することを通じて、県と市町村及び県と民間団体等の連携を強化

【KPI】・市町村担当者会でスポーツツーリズムの検討が行われている